

2008 ミニ・ディスクロージャー

見てわかる“しんきん”



新庄信用金庫ステンドグラス「北の春」は、当金庫の本店新築時に郷土出身の一水会会員、近岡善次郎画伯の原画・監修によって創作されたものです。

「北国に春が来て、遠山にまだ雪が残っているのに梅、桃、桜が同時に咲き出し、少し遅れてサクランボの緑がかった白い花が咲く、それが雪のやっとな消えたかげろうのたなびく野を埋める。働く人も春の野に出ることは喜びである。春風を胸いっぱい吸って、本当に生きている喜びを味わう。この気持ちの良さは、東北生まれの私にとって最高の喜びとして一生忘れず思い続けることだろう。」

基本方針

- 郷土の繁栄に心から奉仕する
- 内容の堅実な金庫にする
- 和顔愛語に満ちた
明朗な庫風を創る
- 待遇の優れた金庫にする



ごあいさつ

皆様には、平素より私ども信用金庫をお引立ていただきまして、誠にありがとうございます。

この「2008年度版 ミニ・ディスクロージャー誌」は当金庫第89期（平成19年度）の決算の状況と事業の概況をご報告するとともに、当金庫の内容等をわかりやすくご説明申し上げるために作成いたしました。ぜひ、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

平成19年度の我が国の経済は、7月頃を境にして、アメリカのサブプライム問題に端を発した、株価下落による世界的な金融市場の混乱、原油等の原材料価格の高騰によるコスト上昇など、次第に減速を強め、今もって先行きの不透明感が続いている状況です。それらの影響がコストの価格転嫁として現れ、中小企業にとっては収益の圧迫になると同時に、家計にとっては負担の上昇と、一層景気減速が懸念される展開となりました。

一方、地区内景況においては、依然として中央との経済格差拡大傾向にあり、中小・零細企業の多くは疲弊する地域経済の中で、引き続き原材料高や売上不振、利益率の低下等から、厳しい状況が続いております。

以上のような経営環境のもと、今年度の業績は次のとおりとなりました。

預金につきましては、要求性預金で手元資金の取崩しによる個人・法人預金の減少がございましたが、個人向け定期預金増強キャンペーン等により前年比1,239百万円増加し、55,617百万円の期末残高となりました。貸出金につきましては、サービス業で増加したものの、個人、製造業を中心に減少基調であり、最終的には前年比539百万円減少の、39,637百万円となりました。

また、収益面につきましては、市場低迷、地合いの悪さから有価証券運用、投資信託・年金保険取扱手数料において、前年を下回る結果となりました。また、資産の健全化を一層進めるため、予め定められた自己査定基準並びに償却・引当基準に基づき、厳密な所要の諸償却・減損処理並びに諸引当金の繰入を行いました結果、当期純利益では19百万円の計上にとどまりました。

これからも、皆様のお役に立てる金融機関になるため「お客様との共生、地域との共生」を実践し、地域に根ざした業務運営に努め、さらに“真心のこもったサービス”を提供してまいりたいと考えております。

今後とも、皆様の一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年8月

理事長 井上 洋一郎

Q1 決算の状況について

A

おかげさまで19年度決算では、409百万円のコア業務純益（本業での利益）、および19百万円の当期純利益を計上することができました。

●資産内容の健全化を第一に考えました。

地域経済において、中小企業は中央との格差拡大が続いており、金融機関は全般的に、貸出金を中心とした効率的な資金運用が難しく、収益環境は厳しさを増しております。

平成20年3月末の業務は、**預金残高556億円（前年比2.2%増）、貸出金残高396億円（前年比1.3%減）**となりました。

収益面では、資産内容の一層の健全化に向け、貸出金の償却0.3百万円、貸倒引当金の繰入305百万円を実施したことで、**経常利益93百万円、当期純利益19百万円**、本業での利益を示す**コア業務純益は409百万円**となりました。

(百万円)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
	第87期	第88期	第89期
出資総額	207	208	208
業務純益	546	660	421
コア業務純益	488	545	409
経常利益	105	70	93
当期純利益	64	45	19

〈しんきん〉のコストパフォーマンス

当金庫の**オーバーヘッドレシオ（OHR）**は、17年度は70.4%、18年度は66.0%、19年度は73.6%となっております。経営合理化・効率化の指標としてよく使われるOHRは、「**コア業務粗利益をあげるためにどれくらいの経費を使ったか？**」を比率で示したものです。つまり、当金庫は100円の粗利益をあげるために使う経費が、70円→66円→73円と推移しております。19年度に比率が上昇したのは、受入手数料の減少や経費等の増加によるものであり、今後ムダのないスリムな経営を目指してまいります。

預金・貸出金の推移

●預金残高の推移

(億円)

	平成16年 3月末	平成17年 3月末	平成18年 3月末	平成19年 3月末	平成20年 3月末
個人預金	460	470	468	464	481
法人預金	87	86	81	79	74
預金残高合計	547	556	549	543	556

低迷する地域経済を反映し、手元資金取崩しの動きの中で、法人・個人とも要求性預金の減少が見られたものの、定期性預金の増加により、期末残高も556億円となりました。

●貸出金・代理貸付残高の推移

(億円)

	平成16年 3月末	平成17年 3月末	平成18年 3月末	平成19年 3月末	平成20年 3月末
貸出金残高	404	398	400	401	396
代理貸付残高	46	40	37	38	36
合計	450	439	438	440	432

サービス業で増加したものの、個人・製造業を中心に減少基調となり、最終的には、期末残高が減少し、432億円となりました。

Q2 自己資本比率について

A 10.40%と高水準を維持。「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準となっています。

●新BIS規制について

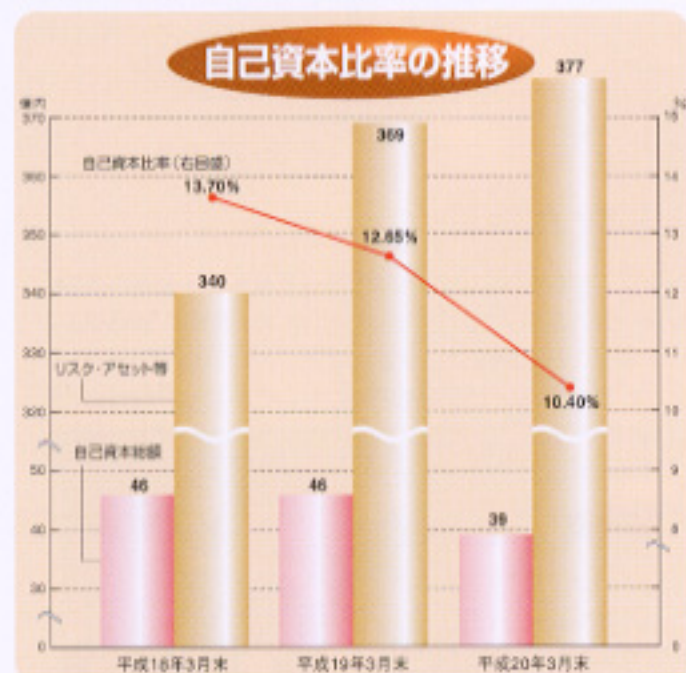
従来、自己資本比率は、自己資本の総額を分子とし、貸出金等の資産総額を分母として計算されてきましたが、近年の金融技術の進展等により、金融機関の抱えているリスクも一段と多様化・複雑化していることから、平成19年3月期より、新BIS規制が導入されました。新BIS規制では、自己資本比率を算出する際分母において信用リスク・アセットに加え、「オペレーショナル・リスク相当額を8%で割って得た額」を計上することになりました。オペレーショナル・リスクとは、システム障害や不祥事、事務ミス等によって被るリスクのことです。その相当額の計算に当たっては、「基礎的手法」を当金庫で採用し、1年間の粗利益に15%を乗じた額の直近3年間の平均値を用いております。また、信用リスク・アセットの計算に当たっては、新BIS規制下で新たに「標準的手法」を採用しております。ここでは、従来よりも資産項目の所定のリスク・ウェイト（損失が発生する危険度に応じた掛け目）が見直され、より細かく算出しております。

●自己資本比率は金融機関の安全性を示す判断指標のひとつです。

自己資本比率は金融機関の安全性・健全性を示す指標のひとつで、資産に対する自己資本（出資金・利益準備金・積立金など）の割合、つまり「いざというときの備えの水準」を表しています。信用金庫のように国内のみで営業活動を行う金融機関については4%あれば経営体質が健全であると判断されています。

●自己資本比率は10.40%と10%台を維持。「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準です。

当金庫は経営の健全性向上のために、自己資本の充実を重点課題のひとつとして、毎年の収益の中から、安定した内部留保の蓄積を行ってまいりました。19年度はQ1でもご説明いたしましたとおり、資産内容の一層の健全化を図るため、償却・引当処理を行い、自己資本比率は10.40%と国内基準である4%を大きく上回っており、健全性を保持しております。また、リスク・アセットに関しましてはサービス業での貸出金増加による信用リスク・アセットが増加しております。



経営健全性の指標「自己資本比率(新BIS規制)」は

自己資本比率 = $\frac{\text{自己資本総額}}{\text{信用リスク・アセット} + \text{オペレーショナル・リスク相当額} \times 8\%} \times 100(\%)$

10.40% 国内基準4%の **2.6倍** 高い安全性を確保しています。

Q3 不良債権の状況について

A 従来にも増して厳格にルールを守り、適正な処理を行っています。

●積極的な不良債権処理を行っています。

金融機関は、企業の運転資金や設備資金、また個人のお客様向けに各種のローンなどを取り扱っていますが、融資先が不幸にも経営不振になったり倒産したりすると、貸出金の回収ができなくなる場合があります。そうなる可能性の高い貸出金を不良債権といいます。

金融機関は、経営の健全性を高めるために、資産の健全度を自己査定によって評価し、それに基づき不良債権の適正な償却や引当をすることが義務付けられております。

当金庫は**資産の健全化を経営の最重要課題と位置づけ**、厳格な自己査定基準に基づき適正な償却・引当を行うなど、**不良債権の一律を図っております。**

20年3月期の状況

(百万円)		(百万円)	
リスク管理債権	金額	金融再生法開示債権	金額
・破綻先債権	987	・破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,621
・延滞債権	1,990	・危険債権	1,365
・3ヵ月以上延滞債権	—	・要管理債権	732
・貸出条件緩和債権	732	・正常債権	37,178
合計	3,711	合計	40,898

金融再生法に基づく不良債権とその保全状況

●金融再生法上の不良債権計 3,720百万円



中小零細企業に携わる方々や、個人のお客様の円滑な金融を担うことが地域金融機関である信用金庫の最も大切な役割ですから、経済状況によっては、ある程度の不良債権の発生はやむを得ないと考えております。

上のグラフにあるとおり、不良債権合計3.7億円のうち3.4億円は**貸倒引当金**（1.5億円）および**担保・優良保証等**（1.8億円）により保全されております。

Q4 投資信託について

A 長引く超低金利と将来受取る年金や退職金に対する不安。このような時代にあってもお金を貯めるだけでなく、殖やすことも大切です。今まで殖やすことに興味がなかった方も確定利付きの預貯金に加え、将来に向けて中長期的な運用に適している投資信託を利用して、バランスのとれた資産作りを考えてみませんか。

- 若いあなたには、将来に備えた資産作りの工夫が大切。
- 働き盛りのあなたには、資産を効率的に殖やす工夫が大切。
- 第2の人生を考えているあなたには、資産をより安全に管理していく工夫が大切。

Q5 キャッシュカード被害について

A 最近キャッシュカードの偽造・盗難により預金引き出される被害が増えておりますので、お客様におかれましては次の点にご注意ください。

- 暗証番号は、他人に知られないよう、十分注意してください。とくに、暗証番号を記載したメモや暗証番号を推測される手掛りとなるものは、キャッシュカードと一緒に保管しないでください。
- 生年月日、ご自宅の電話番号、自動車ナンバーなど、他人から推測しやすい番号を暗証番号とすることは避けてください。
- 暗証番号は定期的に変更することをお勧めいたします。当金庫のATM（現金自動入出金機）で変更が可能です。
- 当金庫以外の金融機関のキャッシュカードを利用される場合には、当金庫のキャッシュカードの暗証番号と同じ暗証番号を利用しないことをお勧めいたします。また、キャッシュカードの暗証番号を貴重品ボックスなど他のサービスを利用する際の暗証番号として使うことは避けてください。
- ATM（現金自動入出金機）などを利用される時は、暗証番号を後ろから盗み見られたりしないようご注意ください。
- 当金庫職員などが訪問や電話などでキャッシュカードの暗証番号をお尋ねすることはありません。不審な点がある場合には、ただちにお取り引きしている店舗にご相談ください。

トピックス



第11回信用金庫社会貢献賞 「地域活性化しんきん運動・優秀賞」を 受賞させていただきました。

平成20年6月19日、信用金庫業界内で毎年行っております業界内表彰「第11回信用金庫社会貢献賞」の「地域活性化しんきん運動・優秀賞」（活動内容は「バイオマス利活用による地域活性化、NPO法人の設立・支援、産学官連携」）を受賞させていただきました。この賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていくことを目的に平成9年度に創設されたものです。



新庄信用金庫

※より詳しい内容は各営業所に信用金庫法に基づくディスクロージャー誌「新庄信用金庫の現状」を備えつけておりますので、ご覧ください。
ホームページ <http://www.shinjosk.com/>

■本店/山形県新庄市本町2番9号 ■作成/本部(総合企画室) ☎0233-22-4222 FAX.0233-23-1690

Q6 業界全体の健全性について

A 信用金庫の中央機関として運用資産25兆円の「信金中央金庫」がバックアップしています。また独自のセーフティー・ネットにより、業界全体の健全性の向上にも努力しています。

- 健全性を維持するために、他の業界には見られない信用金庫独自の安全網を作り上げています。

金融機関の破綻を未然に防止する手立てとして、金融当局による「早期是正措置」がありますが、信用金庫業界では、これに加えて独自の安全網を用意しています。それは、「信金中金」が個々の信用金庫の財務内容等を毎月こまかくチェックし、問題がある場合には改善のための指導や、支援を行う「信用金庫経営力強化制度」です。金融庁の早期是正措置の発動を待たずに、自主的に経営内容を改善するために、業界独自の仕組みを作り上げているのです。

もっと知ってほしい、その実力。
信用金庫と信金中金。

※信用金庫お取組数は2008年3月末現在のものです。
※信金中金お取組数は2008年3月末現在のものです。
ただし、他41社2008年6月末現在、予選参加41社2008年6月27日現在の資格、予選参加により算出されたものです。



信用金庫と信金中金は、手を携えて地域経済の繁栄に貢献しています。

地域経済のパートナー 【信用金庫】

- 豊富な預金量
.....約113兆円
- 巨大なネットワーク
全国281金庫、7,686店舗
- Face to Faceの事業展開
.....役員員数11万2千人
- 多数の出資者
.....928万人

信用金庫のセントラルバンク 【信金中金】

- 運用資産
.....約25兆円
- 高い自己資本比率(単体)
.....15.75%
- 低い不良債権比率
.....0.22%
- 邦銀トップの格付
.....AAA(格付機関JCR)
- 高配当の優先出資
.....予想配当利回り2.96%